

# JBCF

## *JAPAN BICYCLIST CLUB FEDERATION*

一般社団法人 全日本実業団自転車競技連盟

# 2015年度事業活動方針 メディア発表会

於:目黒自転車総合ビル  
2014.12.13

# 2015年度 JBCF事業活動方針発表会

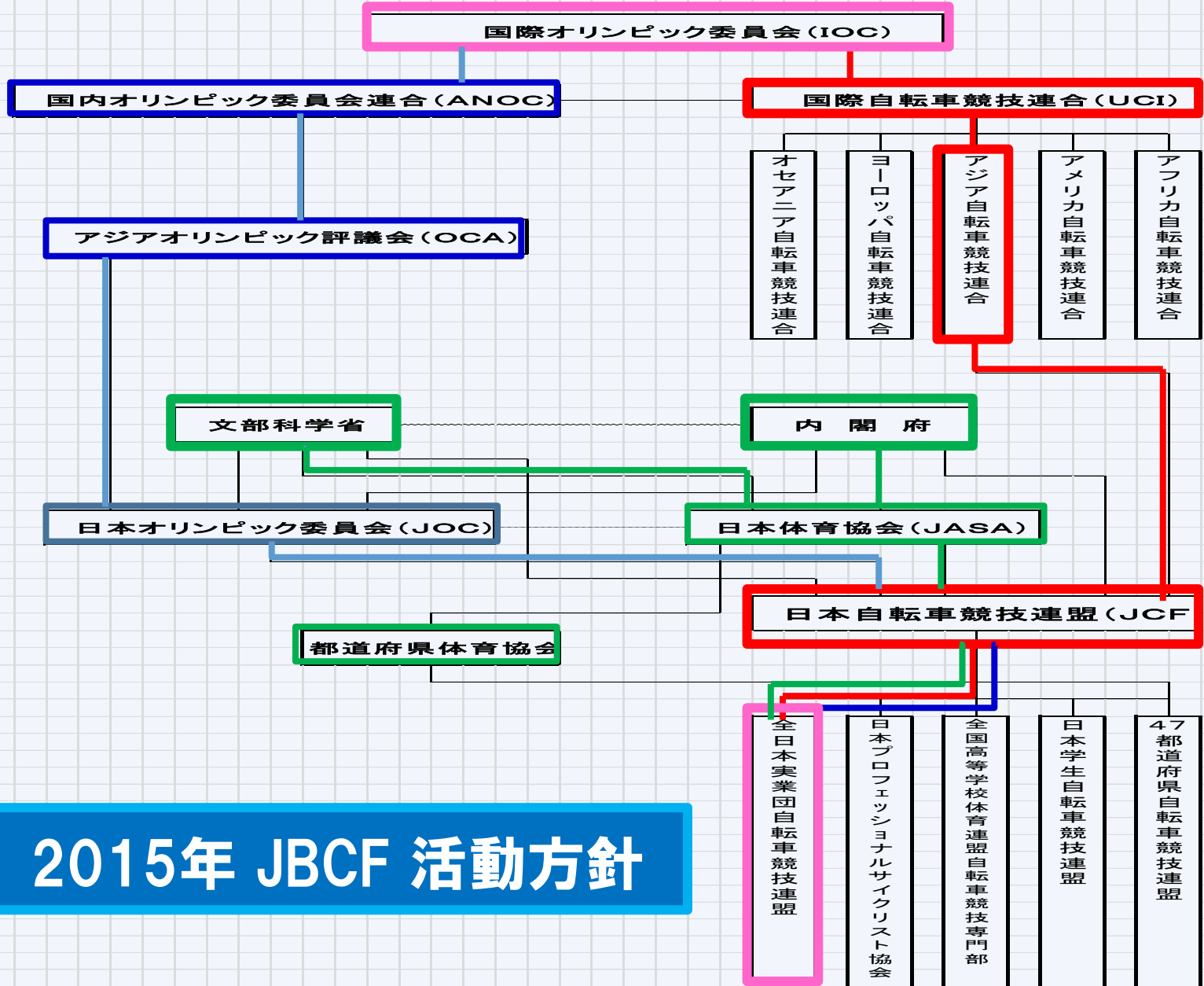
## ■次 第(午後の部)

- |                               |             |      |      |
|-------------------------------|-------------|------|------|
| 1. 開会の挨拶                      | 13:00～13:05 | 理事長  | 斧 隆夫 |
| 2. 2015年度 事業方針、計画             | 13:05～13:25 | 理事長  | 斧 隆夫 |
| 3. 2015年度 Jプロツア-登録チームの発表      | 13:25～13:30 | 理事長  | 斧 隆夫 |
| 4. 2015年レースカレンダー-案発表          | 13:35～13:45 | 事務局長 | 小黒一弘 |
| 5. 2015年 JBCF GUIDE 変更点の説明    | 13:45～13:55 | 事務局長 | 小黒一弘 |
| 6. 2015年TOP-P 10チームのプレゼンテーション | 14:00～14:55 |      |      |
| 7. 質疑応答                       | 15:00～15:20 |      |      |
| 交流会                           | 15:30～17:00 |      |      |

## JBCF 47年の歩み

- 1966年6月 日本自転車工業会(現**自転車協会**)・**自転車産業振興協会**支援で  
“第1回自転車業界親善ロードレース大会”が実車連の前身としてスタート
- 1967年3月 日本自転車工業会・企業が中心となり”**全日本実業団自転車競技連盟**”創立
- 1968年3月 **通産大臣旗**下賜“通産大臣旗・第1回全日本実業団対抗ロードレース大会”開催
- 1972年～ 実業団からオリンピック選手多数輩出、モントリオールで長義一 6位入賞。  
その後毎大会選手派遣。
- 2001年 加盟チーム128チーム、加盟登録者数1122名、初めて**1000名を超える**。
- 2011年1月 従来の任意団体から“**一般社団法人 全日本実業団自転車競技連盟・JBCF**”  
となる。連盟の基盤強化 連盟方針“JPTの価値UP”目指しスタートする。
- 2011年3月 事務局スタート一週間、東日本大震災で中止大会あったが代替、追加で完遂。
- 2011年 連盟法人化後、加盟登録者数2000名を超える、**10年で倍増達成**。
- 2012年～ コンチネンタルチーム、地域密着・貢献型チームの増加傾向  
(2015年は、JPTでコンチネンタル**9チーム**、国内コンチ全チームが登録)
- 2015年～ JPTレースの**Two in One** レースは6開催、24レース(18会場)となる、JET34  
レース、JFT33レース、JYT5レースと開催拡大・向上へ。  
公道レース、ステージレースなど、UCIレース導入の布石へ。

# 日本自転車競技連盟とスポーツ界の組織



## 2015年 JBCF 活動方針

# 2015年 JBCF 活動方針

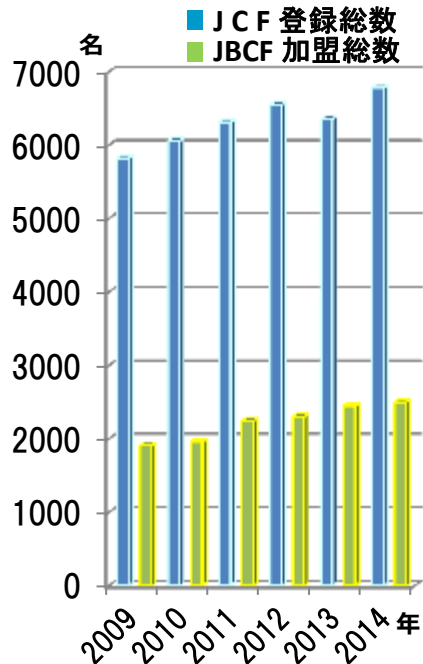
## 弊連盟の位置づけ

JCF 全国組織登録者分布グラフ

JCF 登録者総数 6783名



加盟登録者推移グラフ



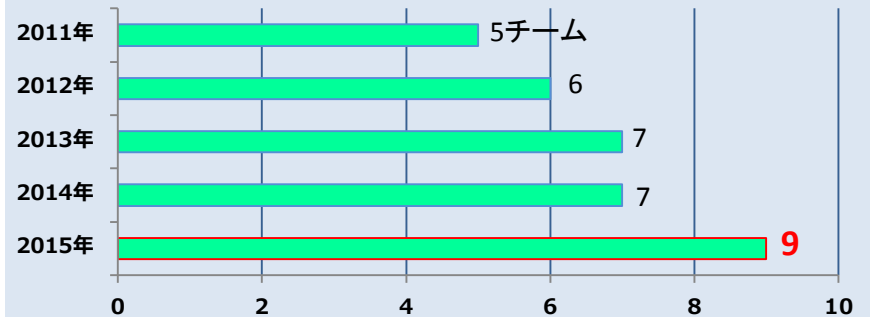
JBCF=(一社)全日本実業団自転車競技連盟は、毎年増加傾向で、JCF=(公財)日本自転車競技連盟の全登録競技選手のほぼ4割をも占める広範囲な選手層を擁する。

## オリンピック、世界選手権へ

UCIコンチネンタル 9チーム (申請中)  
全チームが JPT へ参戦!

日本国内より2015年UCIコンチネンタルチームへ申請中の9チームが、全てJプロツアーに参戦することになりました。

JBCF加盟チームの  
UCIコンチネンタルチームへの登録数推移



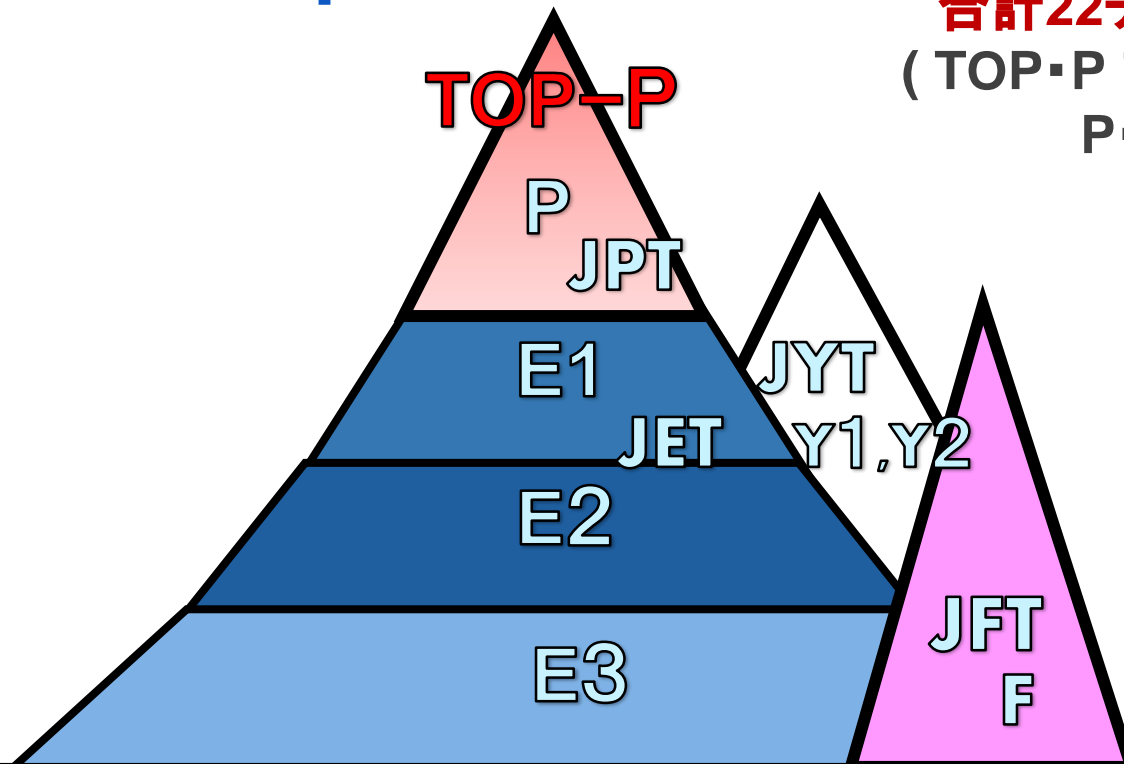
JBCFのトップカテゴリー (Jプロツアー) 加盟チームは、年々その力 (競技、指導、経済、地域貢献など) を蓄え、オリンピックや世界選につながる「UCIコンチネンタルチーム登録」へと、成長を続けている。

# JPT を日本国内トップカテゴリーの 自転車ロードレースとして、その価値を高める

## Japan Pro Tour

2015年は  
**合計22チーム**  
(TOP・P 10チーム  
P・12チーム)

P1-228名  
E1-368名  
E2-501名  
E3-1270名  
F1-110名



エントリーライダーも含むツアーのハードルを下げ底辺拡大

# JBCF 基本方針

**継続**  
Keizoku

**拡大**  
Kakudai

**向上**  
Koujyou

**JPT〈Japan Pro Tour〉を日本国内トップカテゴリーのロードレースとして、その価値を高める**

それらがプレステージを高め、東京オリンピックを目指すうねりが  
ファンを創出、競技人口の拡大に繋げる  
クラスタ制度とランキングで  
魅力ある連盟運営  
よってサイクルレースをメジャースポーツに近づける

# 2015年 JBCF活動方針

## 魅力ある連盟（今年はより高く・・・）

競技で楽しく、見て愉快、目指すはJPTから東京五輪へ

1.メジャースポーツへの成長(魅せる、創るレースへ)

グローバルスタンダード&オリジナルも醸成

2. 情報発信力の進化向上

メディアミックス・アプローチ・即応力

3.本部機能の充実(事務局)

Webを駆使・HPの活用・データベース利用展開



# 2015年 JBCF活動方針

## 1. メジャースポーツへの成長（魅せるレース、創るレースへ）

### Jツアー進化：JPT価値向上

2015年も2ランク制を継続（トッププロ10+12チーム）

JPTチームのレベルアップ（チーム登録条件・契約内容充実してゆく）

- 大会運営
- 集客・ファンの拡大推進（開催地域拡大、ファンクラブ、動画展開）
  - 年間スケジュール早期策定（JFT, JYTの拡充、優先処遇対応も）
  - UCIルール、ベースの大会運営（グローバル・安全性・公平性の確立）
  - 競技審判役員のスキルアップ（若手育成・大会配備システム活用）
- 国際化
- ジュニアの重点育成（JYTからヨーロッパ実戦強化派遣へ）
  - 健康な連盟（A・ドーピング活動の周知、環境配慮、気品ある行動）
  - 連盟強化（チームアテンダント、審判、ドーピング講習会など）
  - UCIレースの開催準備を始める（国内でのUCIポイント獲得）

# 2015年 JBCF 活動方針

## 活動方針・目指す姿

「価値の進化」  
Jプロツアーを日本国内の  
トップカテゴリーとして  
その価値を高めていく

「ファンの創出」  
東京オリンピックを  
目指すうねりが、多くの  
ファンを生み出す

「競技人口拡大」  
クラスタ制とランキン  
グの質を高め、競技人  
口の拡大に繋げる

**自転車競技をメジャースポーツへ**

## 目標に向かっての取組み

### オリンピック、世界戦へ向けて

- ・ Jプロツアーは、大会実戦強化でチーム総合力アップへ
- ・ ジュニア育成・海外派遣・欧州拠点での参戦、強化合宿

### 【ジュニア実戦強化の成果】

本年の世界選手権個人Jr.ロードで、実業団加盟のJr.選手2名が男女それぞれトップグループで大健闘した。

坂口聖香 13位 (93名出走) 石上優大 17位 (187名出走)

### UCI・JCFルール基準で公平・安全性の重視の大会運営

- ・ 2日間(Two in One)開催大会へのアプローチ, UCI & 国際大会
- ・ 2016年にUCI公認ロードレース、その開催準備を進める
- ・ 安全優先レース運営、安全講習、ポイント制改定

### レベルの高いフェアな活動、人材育成

- ・ 公平・安全なレース、アンチドーピング、交通ルール遵守
- ・ チームアテンダント、アンチドーピング、審判ブラッシュアップ等の講習会を積極的に開催

### ファン層の獲得、競技人口の拡大へ

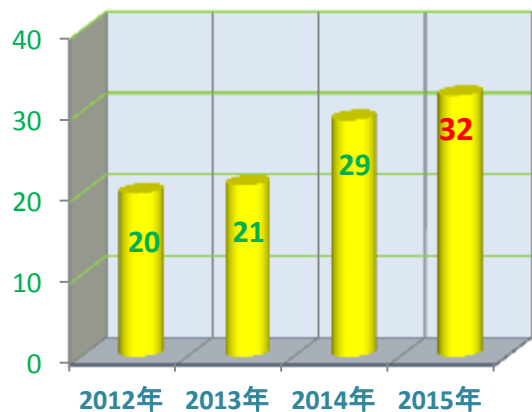
- ・ ホームページは、初心者(競技、観戦)にも、わかりやすく
- ・ 広報強化・情報発信力の進化向上
- ・ 一般レース併催イベントの充実でファン層・底辺拡大

## これからの新規取組概要

- ・2日間同地開催大会(Two in One)6レース開催
- ・2016年以後UCI公認ロードレース、その開催準備をする
- ・外人選手枠の設定、TOP-PとPの入れ替え実施(2016年より)
- ・安全優先レース運営、安全講習(E,Y,F)、ポイント制改定
- ・ジュニア育成・海外派遣・欧州拠点での実戦参加強化合宿
- ・学連、高体連との連携を深め、参加もオープンな実施加速
- ・各種チーム・スタッフ講習会の義務付けを必須とする

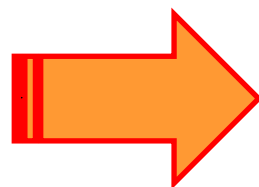
# 2015年 JBCF 活動方針

## JBCF シリーズ開催地推移

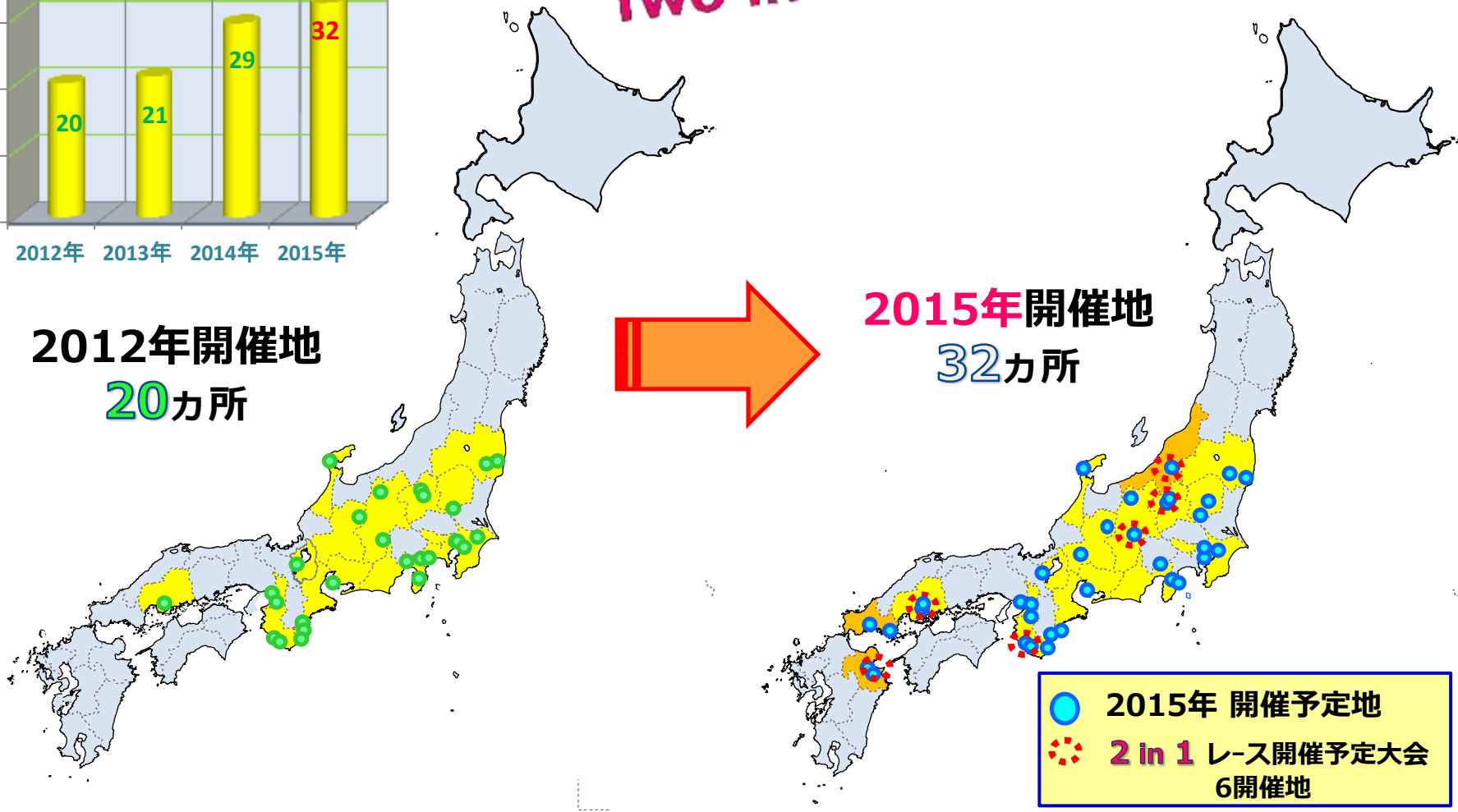


2012年開催地  
20カ所

全国各地でのレース開催、  
Two in One レースを目指して



2015年開催地  
32カ所



# 2015年 JBCF活動方針

## 持続可能な地球環境を Sustainable

環境との共生：自転車レースシーンでできること

### 競技マナー向上

- ・補給/回収ゾーン徹底、“禁ごみ”活動
- ・真のスポーツ環境へ“禁煙”

### 競技運営

- ・“CO2削減”レースのエコ運営
- ・レース車両のハイブリッド車活用

### 競技外の活動

- ・ペーパーレス進化と最適・最少へ
- ・ホームページ、タブレットの活用

## 地域社会への貢献

### 集客による経済効果

- ・大会前の事前視察、試走目的の訪問
- ・大会時の宿泊、食事等での直接効果
- ・大会後の観光目的のリピーター訪問

### 地域の活性

- ・地域密着型チームの発生へ
- ・地元住民がチームを応援し団結力養成
- ・地元への愛着心が増し、人口流出歯止

### 健康増進

- ・自転車が身近になり、通勤通学時の自転車利用や、サイクリングの実施を促し、地元住民の体力向上や健康増進に寄与する

# 2015年 JBCF 活動方針 チーム登録条件(抜粋)

## Jプロツアーチーム価値の STEP UP

### 2015年JPT 加盟登録規定(抜粋)

- ・チームはロゴ・エンブレム作成. チームジャージ、チームカー等に活用
- ・TOP-Pはチームカーをイメージデザインで露出、会場により2台駐車可とする
- ・チーム名のプリントされた最低1個のチームテント(3×3m)を保有
- ・JPTチームスタッフはT・アテンダント講習、コーチ、指導員等資格1名以上必須
- ・登録人数はライダーステイタス選手5名から16名・Min出走人数3名以上
- ・チームと登録選手は契約関係を明確にしておくこと
- ・各チームは連盟の広報・宣伝活動に協力をする

### 2017~18年のプロツアーのイメージ

- ・創立50周年、新ステージへ、よりプロレースに相応しい運営レベルに進化
- ・厳選大会(Two in One)をTOP-Pのレースとしツアー戦(転戦)を展開
- ・上記にUCIレースの導入、連盟・チーム・選手の価値をグローバルに運用

# 2015年 JBCF 活動方針今後のスケジュール

JPTの登録は、昨年のJBCFガイドの通り、2014年JPT年間ランキング上位10チームと、JET1位の11チームにシード権が与えられています。

このシード権チームと、非シードチームからのJPT参入希望チームによって選考され、JPTの2015年は22チームで編成されます。

2014年10月11日(土) 2015年JPT参入チーム登録条件発表(HP・輪島M.M)

11月 3日(日) 大分クリテリウムJPT公式戦最終大会

11月 5日(火) ランキング上位10確定+1チーム、非シードチーム受付開始

11月16日(日) チーム登録申請締め切り

11月18日(火) 選考会議(JBCF理事会)

12月16日(土) 2015年連盟方針発表会(シード&選考チーム概要発表)

場所: 自転車総合ビル


時間: 11:00~12:00 チーム関係者、後援・協賛団体・競技関係者

13:30~15:00 メディア関係者・チーム紹介とチームプレゼン

2015年 1月 5日(月) 加盟登録受付開始

~1月31日(土) 加盟登録締め切り

3月15日(日) Jプロツアー第1戦開催(第2回 JBCF 宇都宮クリテリウム)



本日はありがとうございました  
今後とも、より一層の  
ご支援よろしくお願いいたします

**JBCF**

一般社団法人 全日本実業団自転車競技連盟  
理事長 斧 隆夫